

巻頭言

中学校・高等学校校長 小菅 順一

新しい学習指導要領が、中学校では2021年度に全面实施され、高等学校では2022年度から学年進行で実施されています。これからの学校には、一人ひとりの生徒が自己肯定感を高め、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることができるようにすることが求められ、社会との連携・協議による「社会に開かれた教育課程」の実現が重要視されています。

「社会に開かれた教育課程」としては、地域の人的・物的資源の活用、社会教育との連携が重要とされており、中学校・高等学校においても地域と連携し、地域に開かれた教育活動に取り組んでいます。

中学1年生が行う「まちたんけん」は、学校周辺地域を知り、課題解決を探る取組です。歴史、自然、防災などをテーマに、各班でフィールドワークを行い、収集した情報から課題解決の方策を検討します。毎年全国大会に出場している吹奏楽マーチングバンド部

は、コロナ禍を除いて3月に行う定期演奏会に地域の方を招待し、日頃の成果を披露するとともにマーチングに触れる機会を提供しています。

瑞穂区選挙管理委員会・名古屋市立大学の協力で行う「選挙出前トーク」は、模擬投票を経験して主権者としての自覚を高める企画で、選挙権年齢が18歳に引き下げられて以降実施しています。瑞穂警察署が特殊詐欺被害防止等対策として計画した広報計画には、全国大会出場経験のある中学・高校の放送部が広報音声作成に協力し、放送部生徒の音声は瑞穂区内に響き渡りました。

「高い教養を身に纏った力強い職能人としての女性」を育成するという学園の建学の精神は、新しい学習指導要領が求める「持続可能な社会の担い手」につながります。これからも、地域との連携を含め社会を視野に入れた教育活動を進めていきたいと思っております。

●健康科学部・医療科学部

令和4年9月10日～令和5年3月4日実施(全5回)

名女健康サロンの開催

2019年度に開催した名女健康サロンを2年ぶりに再開でき、今年度は「今日からフレイル予防 de 介護予防」というテーマで健康科学部（健康栄養学科・看護学科）、医療科学部の企画で、2022年9月～2023年3月にかけて計5回行いました。

第1回は、健康栄養学科の学生が主体となり、フレイル予防のための食育講座、たんぱく質の補給に適した簡単な主菜の調理実習が行われました。第2回の、看護学科主催による「自分の健康度を知りましょう！」では、歩行分析や骨密度測定、体組成分析などの項目を測定し、学生が参加者のエスコートをしました。また、理学療法学科の内藤紘一講師より「年齢と歩き方～元気な歩き方を知ろう！～」で、加齢に伴う歩行機能の変化などの講義をしていただきました。第3回は、医療科学部の企画である「自分の体力を評価する！」と題して、理学療法学科では体力を計測し、その結果より参加者が自身の強い部分と弱い部分を確認し、今後の運動の仕方を考えられる機会としました。作業療法学科では、「健康な日常生活に役立つ家事の工夫！」で、参加者が健康を保つ体の使い方や福祉用

具の活用法を提案しました。第4回の、看護学科主催による「こころの健康と茶話会」では、看護学科の新井信之教授より「こころの病の早期発見・治療」について講義をしていた

だき、その後参加者と学生が共にチーム対抗で脳トレゲームをして楽しく過ごしました。第5回は、健康栄養学科の学生による2回目の企画で、たんぱく質の補給に適した簡単な間食の調理実習を実施し、第2回の健康測定会での結果を踏まえた、栄養面でのアドバイス（集団教育）を実施しました。

次年度も、継続して「名女健康サロン」を行っていきたく思っております。

(文責：福田峰子)



第1回 調理実習 (健康栄養学科)



第2回 歩行分析測定 (看護学科)



第3回 健康評価 (医療科学部)



第4回 茶和会での脳トレゲーム (看護学科)

●健康科学部/短期大学部 令和4年9月19日実施

瑞穂区の子育て支援 レシピコンテストに入賞

名古屋女子大学総合科学研究所と瑞穂区役所の共催企画「子どもと朝ごはん 瑞穂区ナンバー1決定戦！」が開催されました。9月19日（月祝）に大学の調理室で最終審査会が行われ、瑞穂区在住の子育て世帯の方の他、健康科学部健康栄養学科の学生2名、短期大学部生活学科の学生1名のレシピも入賞しました。

本企画は地域の子育て世帯の応援を目的としたもので、学生からは、忙しい子育て世帯の朝を想定した様々な工夫をこらしたレシピが提案されました。最終審査会では地域の方と交流する等、充実した時間を過ごすことができましたようです。

(文責：総合科学研究所)



かんたん！パパッとパンキッシュ！
(健康栄養学科学生考案)

●文学部 令和4年11～12月実施

保育園でクリスマス トーンチャイム演奏会

文学部児童教育学科 音楽教育・表現ゼミナール3、4年生の学生が、尾張旭市立西部保育園、本地ヶ原保育園でクリスマストーンチャイム演奏会を実施しました。演奏会では、クリスマスの手遊びや、馴染みあるクリスマスの曲、パネルシアターでのお話と歌、最後には「あわてんぼうのサンタクロース」を演奏し、トーンチャイムの柔らかな音色で、クリスマスの音楽を楽しむ時間となりました。演奏会終了後ゼミ生は、子ども達と園庭や教室で交流する時間を持ち、音楽表現を通じた貴重な経験を積むことができました。

(文責：坪井眞里子)



子ども達もよく聞いてくれました
(音楽教育・表現ゼミナール3、4年生)

●家政学部 令和4年度実施

企業との商品開発、瑞穂区民まつりへ出展

生活環境学科の消費者教育ゼミと調理学ゼミでは、SDGs「12. つくる責任 つかう責任」に繋がる、佃煮（三河佃煮）からのエシカル消費や伝統的な食品の継承をテーマに、昨年度から地元の企業（㈱濱金商店）と協働で研究活動を行なっています。今年度は、佃煮と惣菜の2種類の商品に調理学ゼミの作成した「佃煮のアレンジレシピ」を添え、消費者教育ゼミがデザインした再利用可能な「オリジナル巾着袋」に同梱して商品化しました。両ゼミでプロデュースした商品は、大学祭や11月20日（日）に3年ぶりに開催された「瑞穂区民まつり2022」に出展し、提供しました。瑞穂区民まつりでは、地元の方々や実行委員会の方に暖かく迎えていただき、活動することができました。また、多くの



レシピ集の配布・アンケート活動の様子

来場者があり、アンケート活動や佃煮のアレンジレシピ集の配布にも協力していただきました。学生たちにとって、実践的な学びを深める、貴重な体験ができました。今後の、学生たちの活躍に期待します。

(文責：間宮貴代子)



生活環境学科出展ブース

●文学部 令和4年6～12月実施(全9回)

名古屋土曜学習プログラムでの土曜授業

児童教育学科では、令和4年度も名古屋市内の小学校で児童がわくわくする体験授業を、名古屋土曜学習プログラムに連携・協力して行いました。前年度のコロナによる中止分を含めて、名古屋市の鶴舞小、大宝小、東丘小、植田南小、瑞穂小、極楽小、長須賀小の7つの小学校で9つの講座を児童教育学科の教員が提供しました。各教員の大学での研究に基づく算数（山本）、音楽（坪井、稲木）、科学（小椋、高橋、吉川）、造形（堀）の各分野で、小学校の普通の授業では体験できない楽しい授業を提供しました。また、名古屋土曜いきいきサポーターとして、児童教育学科の1年生から4年生までの学生73名が参加し、学習の補助や講座の支援を行い、児童と関わる貴重な体験をしてきました。

令和5年度も3つの小学校で9つの楽しく学べる土曜授業を行い、名古屋市の小学校での土曜授業補助として学生ボランティアも多く参加できるようになっています。

(文責：吉川直志)



名古屋市立長須賀小学校



正ためんたいの作成体験学習（山本忠先生）

● 短期大学部

令和4年度実施

子どもの権利について学びを地域へ —児童虐待防止運動(オレンジボン運動)を通して—

短期大学部では、本年度も学部で瑞穂区の「児童虐待防止運動」に参画しました。保育学科では、全学生が「子どもの権利条約」について学び、『子どもの最善の利益のために』をテーマにして取り組みました。1年生は、瑞穂区役所民生子ども課の方による「名古屋市や瑞穂区の子どもの虐待の現状と支援体制」についての講演を聴きました。学生は、「児童虐待」が身近に起こっていることを知り、保育者を目指す者としての責任を心に刻みました。卒業学年は「子どもの権利条約と児童虐待」のパネルやリーフレット、書籍の紹介カードを作成しました。さらに保育学科全員でメッセージカードを作成し、パネル等を合わせて図書館や瑞穂区役所に展示し、子どもの権利についての学びと虐待防止の学生の想いを発信しました。

生活学科では、児童虐待についての話を聞き、昨年度に引き続きメッセージカードを作成し瑞穂区役所に飾りました。

この取り組みを通して、地域と共に「子どもを育てる」大切さを伝える良い機会となりました。

(文責：鈴木美枝子)



瑞穂区役所民生子ども課の主査による講義



瑞穂区役所での展示

● 短期大学部

令和4年11月1日から配信

マックスバリュ東海との 産学連携食育活動

生活学科では、マックスバリュ東海との産学連携食育活動の一環として、毎年コラボレシピカードを発行しています。レシピカードは各店舗に設置され、地域の方への情報源となります。今年度は新たな取り組みとして、マックスバリュ東海のYouTubeチャンネルに学生が出演し、レシピを紹介しました。学生はマックスバリュ東海の担当者や動画制作会社のスタッフと打ち合わせを行い、撮影に臨みました。学生は、撮影には緊張しながらも自分の考案したレシピを広く紹介できたことに満足しておりました。

(文責：阪野朋子)



配信された YouTube のサムネイル

● 総合科学研究所

令和4年9月～令和5年3月実施(全11回)

開かれた地域貢献事業

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」として、瑞穂児童館との連携事業は16年目となり、瑞穂区役所との連携事業は5年目となりました。本年度もコロナ禍での活動となりましたが、感染対策を徹底した上で、多くの講座・イベントを開催することができました。

瑞穂児童館との共催事業では、地域の子どもや保護者を対象とした保育・教育、生活・情報関係の9つの講座と、12月のクリスマスイベントを開催しました。

瑞穂区役所との共催事業では、瑞穂区の子育て世帯の支援を目的としたレシピコンテストを開催しました。

どの事業にも多くの申込をいただき、地域の方々に楽しんでいただくことができました。また多くの学生ボランティアが参加し、日々の学びを実践したり、地域の方々と交流したりと、良い経験となったようです。今後とも一層地域との連携を深めながら、安全な地域貢献事業を継続して参ります。

(文責：総合科学研究所事務)



かんたんおもちゃ作り



サンタさんとメリークリスマス!

● 大学図書館

令和4年10月1日実施

「音楽表現ゼミ」 「絵本おはなし会」コラボ催事

令和4年度大学祭で、文学部音楽表現ゼミと絵本おはなし会の共催による『音と絵本のコンサート』を開催しました。イベントではおはなし会メンバー学生とゼミの学生が共演し、音楽をとり入れた読み聞かせや手遊び、ゼミ生によるハンドベルの演奏の後、来場した子どもたちが楽器や絵本に自由に触れるフリータイムを設けました。3年ぶりの地域開放での大学祭で、コンサートには多くの方が来場され、学生達にも大きな糧となりました。

(文責：尾崎友子)



図書館ラーニングcommonsでのコンサート

子どもの食事と健康について学びましょう!

オープンカレッジ事務室では、毎年、名古屋市瑞穂生涯学習センターと共催の「公開講座」を実施しています。今年度は「子どもや孫のために！幼児期から学童期の食事と健康の関係を学ぶ」をテーマに、健康科学部教員による講演を行いました。30～60代の参加者の方からは、「色々な分野のお話を聞くことができ、とても有意義な内容だった」等、ご感想をいただきました。今後も地域の方々との交流を深めることができる地域貢献事業に取り組んでいきます。

(文責：今泉佳菜)



公開講座の風景

放送部 瑞穂警察署にて感謝状贈呈式 特殊詐欺被害防止等の広報音声を制作

中学・高校の放送部は、瑞穂警察署の生活安全課から特殊詐欺などの被害防止ならびに交通事故防止を呼び掛ける広報音声の録音を依頼していただきました。瑞穂警察署から届いた11種類原稿を中3から高3まで9名の部員と、昨年度高等学校総合文化祭とNHK杯高校放送コンテストの両方で全国大会出場という快挙を達成した卒業生も参加して録音をしました。

2022年10月14日(金) 瑞穂警察署にて感謝状贈呈式とメロディ・パトロール出発式にお招きいただきました。瑞穂区長も同席していただき、放送部の代表生徒が警察署長より感謝状を授与していただきました。放送部員は中日新聞社とCBCの取材を受けました。出発式の後、部員はパトカーに乗せていただきメロディ・パトロールに出発しました。

本校の放送部の普段の活動を高く評価していただいたことは光栄至極で心から感謝するとともに、地域社会に貢献できたことをたいへん嬉しく思います。

(文責：秋田武史)



瑞穂警察署での感謝状贈呈式



メロディ・パトロール出発式

「〈なごや学〉近代の歴史散歩」の 現地学習に記念館が協力

名古屋市教育委員会生涯学習課の企画に協力し、6月11日(土)、10:00-12:00、瑞穂生涯学習センター主催「〈なごや学〉近代の歴史散歩～身近な「道」に魅力を感じて～」5回連続講座の第2回目として、「山崎川周辺の道」と題する現地学習を記念館で実施しました。

参加者は募集定員の受講者20名に、地元瑞穂のまちづくり会と歴史研究会の2団体が加わり、総勢49名となりました。

学園周辺には山崎川と深く関わる「桜」や「塩」の道があり、また江戸時代からのため池が埋め立てられゴルフ場となり、今はグラウンドや住宅街になっている変化を、本学園が葵町から現在の地に移転した昭和10年前後の写真とともに紹介し、熱心にご覧いただく様子が窺えました。



開催中の写真展 「山崎川周辺いまむかし」の見学



「山崎川周辺の道」講演会に49名参加

今や桜の名所となる「山崎川の桜」ですが、昭和3年に山崎川の石川橋から鼎橋の流路変更に伴い、両岸を中心に1千数百本の桜を植えたのが始まりで、鼎橋から下流は昭和25年の改修により堤に植樹されました。現在と過去を繋ぐ学園所蔵の歴史資料が、地域にとっても魅力ある貴重な資料であることを発信できる好機となりました。

(文責：越原記念館 鈴木孝子)

編集後記

地域連携ニュースレター第6号をお届けします。大学各学部、図書館、中学校・高等学校、越原記念館からの報告により、学園全体の地域連携活動についてお伝えすることができました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。今年度も瑞穂児童館や瑞穂区役所との連携活動が継続して実施されるとともに、瑞穂区民まつりブース出展や名女健康サロンなど新型コロナウイルスにより中止されていた活動が再開されました。来年度は新型コロナウイルスの感染症上の位置づけが5類に移行し、さらに活動内容が広がるのが考えられます。地域連携ニュースレターではこれからも、学園の特色を生かした新たな地域連携事業についてお伝えしていきます。

(文責：山中なつみ)